

研究ノート

自律的学習者とは：『振り返り』と『ポートフォリオ』を用いた教員養成課程における試み

¹今井 由美子 ²大塚 朝美 ³若本 夏美

¹同志社女子大学・表象文化学部・英語英文学科・准教授

²大阪女学院大学・特任講師

³同志社女子大学・表象文化学部・英語英文学科・教授

A study of learner autonomy in a Teacher-training course using reflection and portfolios

¹Yumiko Imai ²Tomomi Otsuka ³Natsumi Wakamoto

¹Department of English, Faculty of Culture and Representation,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Associate Professor

²Lecturer, Osaka Jogakuin University

³Department of English, Faculty of Culture and Representation,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

1. はじめに

学習者の自律を促す取り組みは、近年様々なアプローチで行なわれており、どの授業においても不可欠な要素であることは否めない。英語科の教員養成という観点からは「自律的学習者を育成する英語教師」をどう養成するかという課題に自ずと結び付き、教員志望の学生自らも自律的学習者であることが求められる。本稿では、まず教職履修生自身が意識していると思われる自律的学習者の要素を探索するために、予備調査として自由記述式のアンケートを行い、その結果をもとに作成した『『振り返り』に関する質問紙』を実施した結果を考察する。また、教職課程において導入されたポートフォリオの活用状況について報告する。

2. 『振り返り』に関する質問紙調査

2.1 予備調査

自律的学習者の要素を探索するために、「授業をどのように振り返っているか」「テスト・スコア（テスト結果）をどのように活用しているか」「返却されたエッセイ、レポート、小テストをどうしているか」「『授業を振り返ること』についてどう考えているか」の4つのテーマについて、英語英文学科1年～4年生358名（1年生147人、2年生140人、3年生32人、4年生39人）を調査協力者として自由記述式調査を行った。

2.2 質問紙作成および調査実施

4つのテーマについて予備調査で得られた67項目を整理し、1) 授業を振り返ること、2) テスト・スコアを受け取った後の活用方法、

表 1. 振り返ることに関する記述統計

質問項目	回答%		M	SD
	(6-4)	(3-1)		
	肯定的	否定的		
1 テスト前だけでなく日常的に復習（振り返り）をしたい	75	25	4.2	1.11
2 復習（振り返り）は重要だと思う	100	0	5.2	0.84
3 毎日忙しいので復習する（振り返る）時間がない	86	14	4.3	1.07
4 復習（振り返り）の方法を考え直したい	72	28	4.2	1.21
5 科目によって復習（振り返り）の方法がわからない	58	42	3.6	1.25
6 興味のある授業をよく復習する（振り返る）	86	14	4.3	1.05
7 課題をすることによって復習している（振り返る）	94	6	4.8	0.91
8 復習する（振り返る）のは面倒だ	72	28	4.0	1.07
9 点数を見て英語を学ぶモチベーションを維持する	94	6	4.7	1.13
10 点数を見て次のテストで達成する目標点を設定する	81	19	4.3	1.15
11 点数を見て自分の苦手な問題のタイプを確認する	92	8	4.7	0.85
12 点数を見てこれまでの学習方法が正しかったか考える	72	28	3.9	1.10
13 点数を見て現時点での自分の英語能力を確認する	94	6	4.9	0.94
14 点数表は保管しておく	86	14	4.7	1.20
15 点数を見るだけで特に何もしない	39	61	3.1	1.21
16 これまでのテストの点数からの伸びを考える	86	14	4.6	1.06
17 教科別にファイルに入れて保管している	75	25	4.4	1.36
18 不要だと思うものは捨てる	75	25	4.4	1.40
19 教科書にはさんでおく	50	50	3.1	1.17
20 整理はしないがとっておく	50	50	3.3	1.24
21 評価だけを見る	39	61	3.3	1.17
22 同じ間違いをくりかえさないように間違えた所を見直す	81	19	4.2	1.01
23 先生（またはクラスメイト）からのコメントを読み直す	97	3	4.9	0.83
24 他の授業で活用できないか考える	81	19	4.3	1.22
25 テスト前に見直す	97	3	4.9	0.99
26 気になったときに見る	72	28	4.1	1.21
27 見直しをしない	12	78	2.9	1.26
28 昔と今の自分を比較する	78	12	4.1	1.23
29 毎回の授業時に持参する	44	56	3.3	1.29
30 テスト前にノートを見直す	94	6	4.9	1.20
31 課題をする前にノートを見直す	78	12	4.3	1.28
32 ハンドアウトを読み直す（復習する、見直す、振り返る）	94	6	4.8	0.95
33 テキスト（教科書）を読み直す	81	19	4.4	1.23
34 授業で学んだことをクラスメイト、友人、家族に話す	64	36	4.0	1.25
35 授業で習ったことを頭の中で思い出す	75	25	4.1	1.05
36 授業で新しく習った、目にした英単語を確認する	69	31	4.0	1.27
37 知らなかった事柄をインターネットなどで調べる	56	44	3.9	1.24
38 授業に関して特に振り返ることはない	19	81	2.8	1.23
39 授業で興味をもった事柄を授業後に調べる	75	25	4.1	1.16
40 苦手な単語の発音練習をする	68	22	3.9	1.43

3) 返却されたレポート、エッセイ、小テストの扱い、4) 普段の授業の振り返り、の4部門40問から成る「『振り返り』に関する質問紙」を作成した(資料1)。回答は「1:全く当てはまらない」「2:当てはまらない」「3:あまり当てはまらない」「4:やや当てはまる」「5:当てはまる」「6:よく当てはまる」の6段階の尺度を用い、マークシートを利用した。英語英文学科教職課程履修中の4年生36名を調査協力者とし、「振り返り」に焦点をあてた自律的学習への取り組みを調査した。

2.3 調査結果と考察

質問に対しての回答を集計し、振り返ることに関する記述統計を表1にまとめた。各質問項目に対して「6:よく当てはまる」「5:当てはまる」「4:やや当てはまる」に回答したものを「肯定的回答」、「1:全く当てはまらない」「2:当てはまらない」「3:あまり当てはまらない」に回答したものを「否定的回答」とし、%で表した。40問の質問において、調査協力者全員が肯定的に回答したのは、「Q.2:復習(振り返り)は重要だと思う」であり、このことか

ら振り返ること(復習)の重要性は十分認識されていることがわかる。

また、主に肯定的な回答を得ているものは、「Q.7:課題をすることにより復習している」「Q.9:点数を見て英語を学ぶモチベーションを維持する」「Q.11:点数を見て自分の苦手な問題のタイプを確認する」「Q.13:点数を見て現時点での自分の英語力を確認する」「Q.23:先生(クラスメイト)からのコメントを読み直す」「Q.25:テスト前に見直す」「Q.30:テストの前にノートを見直す」「Q.32:ハンドアウトを見直す」の8項目であり、36人中33人(92%)以上が肯定的に回答している。これらは、振り返り(復習)のために実際に行われていることであると言える。この結果から、課題への取り組みによって復習し、出された点数やコメントを自己分析に役立てようとする姿勢が読み取れる。また、テスト前には授業内容の見直しやテスト勉強として行なわれていることがわかる(表2)。

さらに、調査協力者36人中20人(56%)以上が否定的に回答したのは、「Q.15:点数をみるだけで何もしない」「Q.21:評価だけを見

表2. 調査結果(1) 振り返ること(復習)の重要性への意識
36人中33人(92%)以上が肯定的に回答

	肯定的	否定的	M	SD
#7 課題をすることによって復習している(振り返る)	94	6	4.8	0.91
#9 点数を見て英語を学ぶモチベーションを維持する	94	6	4.7	1.13
#11 点数を見て自分の苦手な問題のタイプを確認する	92	8	4.7	0.85
#13 点数を見て現時点での自分の英語能力を確認する	94	6	4.9	0.94
#23 先生(またはクラスメイト)からのコメントを読み直す	97	3	4.9	0.83
#25 テスト前に見直す	97	3	4.9	0.99
#30 テスト前にノートを見直す	94	6	4.9	1.20
#32 ハンドアウトを読み直す(復習する、見直す、振り返る)	94	6	4.8	0.95

表3. 調査結果(2) 振り返ることをしない、点数をみるだけ、など
36人中20人(56%)以上が否定的に回答

	肯定的	否定的	M	SD
#15 点数を見るだけで特に何もしない	39	61	3.1	1.21
#21 評価だけを見る	39	61	3.3	1.17
#27 見直しをしない	12	78	2.9	1.26
#29 毎回の授業時に(返却されたものを)持参する	44	56	3.3	1.29
#38 授業に関して特に振り返ることはない	19	81	2.8	1.23

表 4. 調査結果 (3) 知識・教養を豊かにするための取り組みへの意識
否定的な学生も少なくない

	肯定的	否定的	M	S.D.
#34 授業で学んだことをクラスメイト、友人、家族に話す	64	36	4.0	1.25
#36 授業で新しく習った、目にした英単語を確認する	69	31	4.0	1.27
#37 知らなかった事柄をインターネットなどで調べる	56	44	3.9	1.24
#39 授業で興味をもった事柄を授業後に調べる	75	25	4.1	1.16
#40 苦手な単語の発音練習をする	68	22	3.9	1.43

る」[Q. 27：見直しをしない] [Q. 29：毎回の授業に（返却されたものを）持参する] [Q. 38：授業に関して振り返ることはない] の 5 つであった。これらの質問に否定的に回答するということは、テストなど返却された場合、（それらを常に持ち歩くことはしないが）点数や評価を参考に見直す機会をもち、次の行動に移そうという姿勢であり、このことから振り返りへの取り組みがうかがえる（表 3）。

興味深いのは「Q. 34：授業で学んだことをクラスメイト、友人、家族に話す」「Q. 36：授業で新しく習った、目にした英単語を確認する（覚える、辞書で調べる）」[Q. 37：知らなかった事柄をインターネットなどで調べる] [Q. 39：授業で興味を持った事柄を授業後に調べる] および「Q. 40：苦手な単語の発音練習をする」への回答である。いずれも評価対象や得点化されないものではあるが、知識・教養を豊かにするための学習方法である。授業中に提示された事柄について調べようと行動をおこすこと（Q. 39）については、積極的な姿勢を見ることができる。しかしながら、知らなかった事柄をインターネットなどで調べる（Q. 37）、新しく学んだ事柄を話題として取り上げ、説明し意見を交わす（Q. 34）、語学力の基礎となる地道な学習を行う（Q. 36、Q. 40）といった、自発的な行動に関連した項目には否定的に答えた学生も決して少なくないことが明らかとなった。授業で学んだことを話題にする・練習する、興味をもった事柄についてより情報を収集するなど、能動的・積極的に学ぶ姿勢が自律的学習者になるために求められている要素である

ことが示された（表 4）。

これらの質問紙調査の結果から、学生たちは振り返りの重要性は認めた上で、与えられた課題、コメント、点数などをきっかけに振り返りの行動を起こしていることがわかる。一方、授業に関連した事柄をさらに自主的に調べること、それらについてより深く考える時間を割くことについては消極的な学生も少なくないことがわかる。与えられたきっかけをもとに行う振り返りを重ねることで、与えられずとも自ら振り返りを行ない、さらに探究するという自律的学習につながるとすれば、きっかけを与えつつ、後者につながるヒントをも与えることが大切である。

3. 教職課程ポートフォリオ

3.1 教職課程のポートフォリオの扱い

同志社女子大学の教職課程履修生には、文部科学省から提示された原案をもとに同大学の教職課程センターが中心となって作成したポートフォリオ「教職課程履修のあゆみ」（同志社女子大学教職課程センター、2011）が配布されている。ポートフォリオは、教職課程履修生の現 4 年生に対して彼女たちが 2 年次の 7 月に『教職論』のクラスにて配布された。クリアファイル（A4 版 30 ポケット）と必要ページが配られ、学生が随時記入し各自でページを差し込む形式である。配布の際には、教職課程センター職員がフローチャートを用い、記入方法や提出時期などの具体的な指示および説明を 10 分程度で行なった。

1 度目の「あゆみ」の回収は、3 年次の秋学

期最終日に英語科教科教育法の授業で行ない、4年次の4月に教育実習の授業で学生に返却した。2度目は同授業内で4年次の春学期最終授業日に回収し秋学期の初回授業において返却、3度目は12月に回収し1月の最終授業において学生に返却した。

3.2 ポートフォリオ記入内容についての考察と提案

ポートフォリオには、次の5項目について記入が求められている。それらは、①履修科目の内容に関する今後の課題、②活動記録、③テーマ別学習、④自己評価シート、⑤評価記録、であり、①～④は履修学生が、⑤は教職指導教員が記入するものである。

①履修科目の内容に関する今後の課題

ここでは、教職や教科に関する科目の履修状況について記入が求められる。「開設科目名」と「単位数」はあらかじめ印刷されており、「修得年次」、「教員名」、「印象に残った内容（箇条書き）」、「今後の課題」は学生自身が書き込む様式である。教職課程履修中の4年次生のポートフォリオを3年次修了時（1月）に回収して内容および記入方法のチェックを行なったところ、「印象に残った内容」について、具体的に書かれているものが少なく、箇条書きで書くことになっているものの1文のみの記載も少なくなかった。「今後の課題」においては記入のないものが目立ち、具体性に欠け、記入される分量が不十分と感じられる結果となった。これら2点の改善を図るために、あらかじめ記入例を挙げ、より具体的な指示を与えると同時に、科目履修を終えた比較的早い時期の記入を促す必要がある。

さらに、①には「英語コミュニケーション能力に関する今後の課題」というページが追加されている。これは、英語英文科内に発足したプロジェクトチームにより作成され、学科の承認を得たものであり、英語教員を目指す者として意識しておきたい英語英文学科に特化した内容

となっている。ここでは、1) TOEIC スコアの伸び、2) その他の英語能力テストの記録、3) 英語能力伸張の記録（包括的自己評価）の3点についての記録を求めている。各種英語標準テスト（英検、TOEIC、TOEFL など）のスコアについては、スコア以外に感想を書く欄も設け、各自のテストへの取り組みや結果に対する自己分析も記入するよう求めている。しかし、ほとんどの学生が手元にあるスコアを記入してはいるが、感想を書き、なおかつ自己分析や次回への課題を挙げているものは少なかった。この点においても、テスト結果を受け取ってから記入するまでの時間が長くなると、記憶が曖昧になり効果的な振り返りが難しいと推測する。包括的自己評価では、スピーキング、リスニング、発音能力、語彙能力、文法能力の5項目について6段階（A：十分満足できる能力、B：満足、C：やや満足、D：やや不十分、F：まったく不十分、E：不十分）で評価を記入する形式である。注意事項として、「具体的に成長した部分、まだ不十分な点を記録しておこう」と記されているが、単に6段階の評価のみを選んでいる者が多かった。一方、少数ではあるが余白に自己分析を書き加えている者もみられた。

②活動記録および③テーマ別学習の記録

ここでは、介護実習や中学校・高校におけるボランティア活動（学習サポート）など教職に関係する活動について記載させることが目的である。②には活動の期間、対象学年、活動名、活動場所、活動内容の概要を記入し、③には活動の概要（内容、場所、日時、その他）、参加するにあたっての自己目標（活動前に記入）、活動を通して学んだこと、自分自身で達成したこと、今後の課題をより詳しく記す。あゆみを回収して驚いたのは、②の欄にサークル活動やクラブ活動についての記入が数例みられたことであり、介護実習やボランティア活動などを記入させようとしたこちらの意図とは異なっていた。しかしながら、その記録をきつ

けに学生らの課外活動の様子を知る機会が得られ、多方面にわたり積極的に活動している姿勢を垣間見ることとなった。この記入例が示すように、将来的に教員を目指す者として学校生活の様々な場面に対応できる可能性を示す目的から、教職関連項活動に加え、課外活動について記録を残すことはむしろ奨励されるべきであると考えらる。

④自己評価シート

文科省例示による指標7項目(学校教育についての理解、子どもについての理解、他者との協力、コミュニケーション、教科・教育課程に関する基礎知識・技能、教育実践、課題探究)について、5段階(A:達成度はかなり高いと思う、B:達成度はやや高い方だと思う、C:やや不十分であると思う、D:まったく不十分だと思う、NA = Not applicable [未経験の内容であり、まだ自己評価できない])で自己評価をさせている。ここではとくに問題なく自己評価が書き込まれていたが、評価の低い項目については、今後どのような対処が必要かを書かせるスペースを設けることでより効果的な振り返りが可能となるだろう。

⑤評価記録

これは、教職課程を指導する教員が評価を書き込むページである。記入教員名を記入し、中間評価記録として3年次秋学期時点での特記事項、また、面談評価記録として4年次春学期時点での特記事項を記載するスペースが設けてある。ページの下にはチェックポイントの例として、9項目が挙げられ、『教職課程履修のあゆみ』を計画的に記入しているか、「教職に関する科目」「教科に関する科目」を計画的に履修しているか、などの例が箇条書きにされている。ここでは、全般的に良く書けている、など「あゆみ」の記入に対する全体的な取り組みへの評価コメントや、記入が不十分だったページへの指摘などを書いて返却した。

全体として、教職課程ポートフォリオ配布時期、教員による回収および確認時期、提出回数を再考するとともに、ポートフォリオの存在を常に学生に意識させる必要がある。ポートフォリオの使用説明にはもう少し時間を割き、記入例を見せるなどして記入の仕方を具体的に示すことで、より充実した振り返りにつながるだろう。その他、教職関連の授業で作成したレポート、模擬授業の評価およびコメントなどもポートフォリオに保管するように声掛けをし、より積極的かつ効果的にポートフォリオを活用していく環境を整えることが重要である。

4. 今後の課題

教職課程の履修は多くの「振り返り」から成り立つが、今回の質問紙の結果から、指示されたことはできるが、自ら動いてさらに探究するという自律的学習を学習者に求めることは困難であることが示唆された。ポートフォリオのさらなる活用を通し、「自発的な自律的学習」を促す取り組みが今後の課題となるだろう。また、今後はe-ポートフォリオへの移行も視野に入れ、より積極的かつ効果的なポートフォリオの活用を促していきたい。

注:本研究は、平成24~26年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(課題番号24520671)の助成を得て行っている。この研究ノートは全国英語教育学会第39回北海道研究大会(於:北星学園大学、2013年8月)で報告した事例報告を加筆修正したものである。

参考文献

- 同志社女子大学教職課程センター(2012).『教職課程履修のあゆみ』京都: Author
- 小川賀代・小村道昭(2012).『大学力を高めるe-ポートフォリオ:エビデンスに基づく教育の質保証をめざして』東京:東京電機大学出版局.
- 佐藤浩章(2010).『大学教員のための授業方法とデザイン』東京:玉川大学出版部.

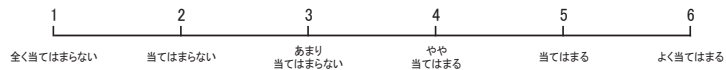
資料 1

「振り返り」に関する質問紙
Version 1.0

© Imai, Otsuka & Wakamoto

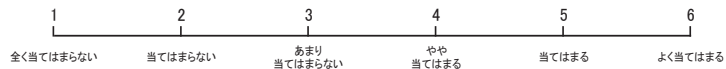
この質問紙は、授業の振り返りについて調査するものです。**現在の英語学習のやり方**をふり返って、あまり深く考え過ぎずに以下の質問にお答え下さい。ご協力いただいたデータ保管には細心の配慮（鍵のかかるロッカーに保管）をし、研究プロジェクト終了後には破棄いたします。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

例：ケーキ作りが好きだ（当てはまる数字を選びマークシートに回答してください。）

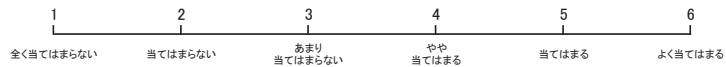


【第1部】「授業を振り返ること」について

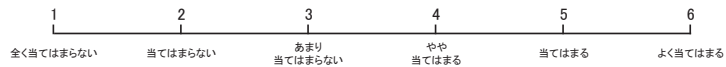
1. テスト前だけでなく日常的に復習（振り返り）をしたい



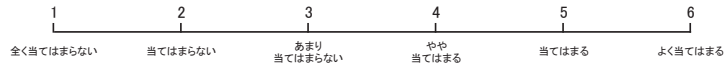
2. 復習（振り返り）は重要だと思う



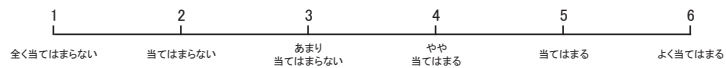
3. 毎日忙しいので復習する（振り返る）時間がない



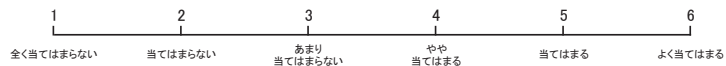
4. 復習（振り返り）の方法を考え直したい



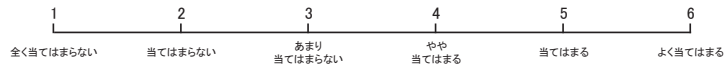
5. 科目によって復習（振り返り）の方法が分からない



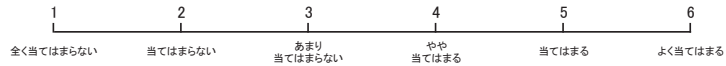
6. 興味のある授業をよく復習する（振り返る）。



7. 課題をすることによって復習している(振り返る)。

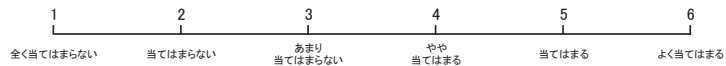


8. 復習する(振り返る)のは面倒だ

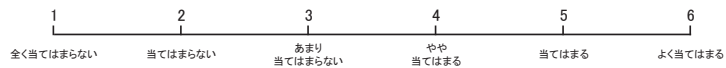


【第2部】 テスト・スコア(テスト結果)を受け取った後の活用方法について

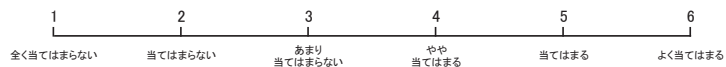
9. 点数をみて英語を学ぶモチベーションを維持する



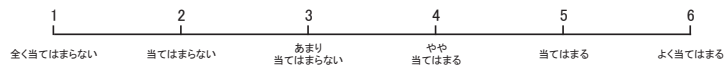
10. 点数をみて次のテストで達成する目標点を設定する



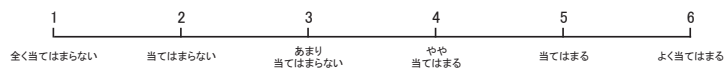
11. 点数をみて自分の苦手な問題のタイプ(例えばリスニングの対話問題)を確認する



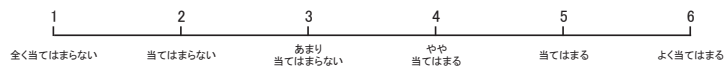
12. 点数をみてこれまでの学習方法が正しかったかどうか考える



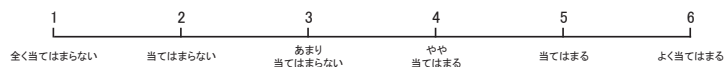
13. 点数をみて現時点での自分の英語能力を確認する



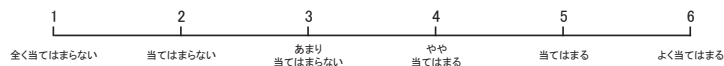
14. 点数表は保管しておく



15. 点数をみただけで特に何もしない

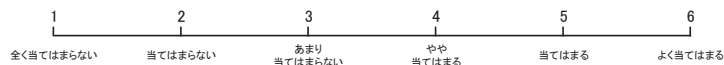


16. これまでのテストの点数からどのくらい伸びているか考える

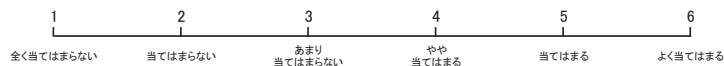


【第3部】授業で返却されたレポート、エッセイ、小テストの扱いについて

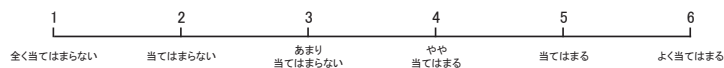
17. 教科別にファイルに入れて保管している



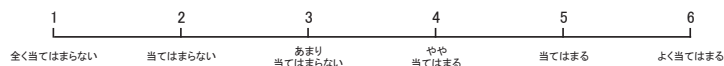
18. 不要だと思うものは捨てる



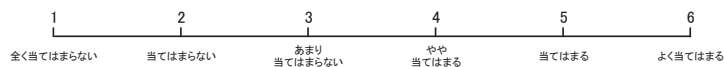
19. 教科書にはさんでおく



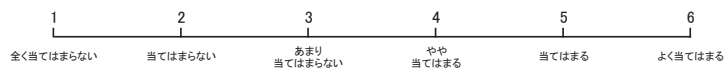
20. 整理はしないがとっておく



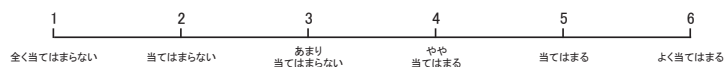
21. 評価だけを見る



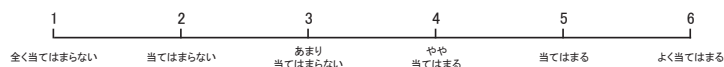
22. 同じ間違いをくりかえさないように、間違えた所を見直す



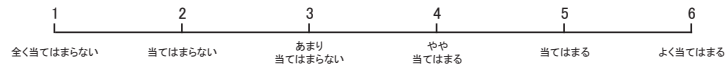
23. 先生（またはクラスメイト）からのコメントを読み返す



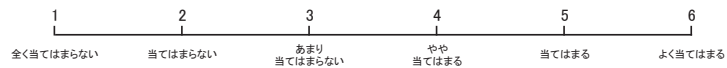
24. 他の授業で活用できないか考える（例えばライティングのエッセイをスピーキングで利用するなど）



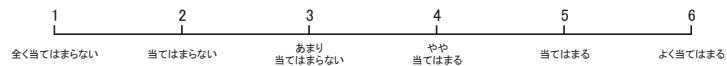
25. テスト前に見直す



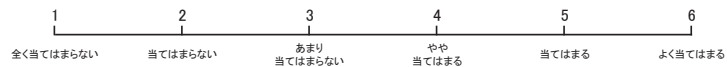
26. 気になったときに見る



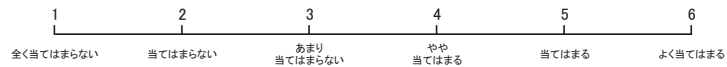
27. 見直しをしない



28. 昔と今の自分を比較する

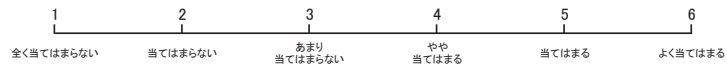


29. 毎回の授業時に持参する

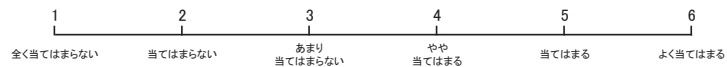


【第4部】 普段の授業の振り返りについて

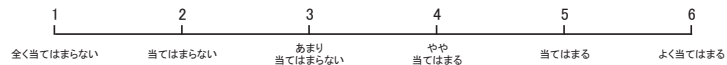
30. テストの前にノートを見直す



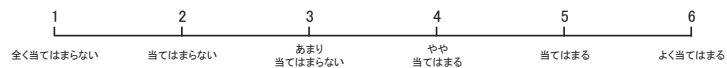
31. 課題をする前にノートを見直す



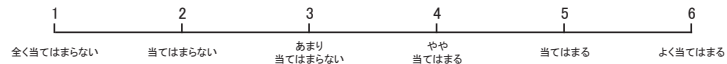
32. ハンドアウトを読み直す（復習する、見直す、ふり返る）



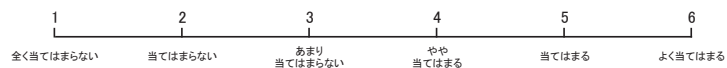
33. テキスト（教科書）を読み直す



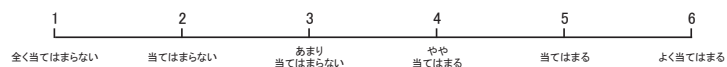
34. 授業で学んだことをクラスメイト、友人、家族に話す



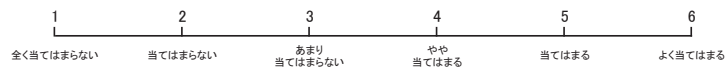
35. 授業で習ったことを頭の中で思い出す



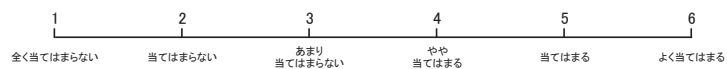
36. 授業で新しく習った、目にした英単語を確認する（覚える、辞書で調べる）



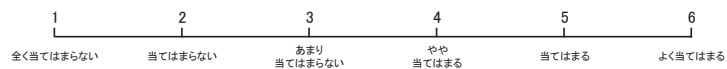
37. 知らなかった事柄をインターネットなどで調べる



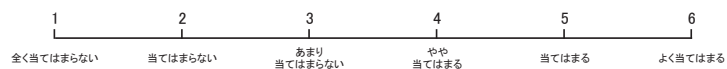
38. 授業に関して特にふり返ることはない



39. 授業で興味を持った事柄を授業後に調べる



40. 苦手な単語の発音練習をする



質問はこれで終わりです。
ご協力ありがとうございました。